

令和6年度 会員研修会
「片岡啓子先生のレッスン」②

2024.5.4 (土)
雀宮生涯学習センター



先週に引き続いて、片岡啓子先生の2回目のレッスンが行われました。

今回強く印象に残ったのは、「ラ・ボエーム」の二重唱をレッスンされているときの先生のお話です。それは、先生が往年のイタリアの名バリトン歌手「ピエロ・カプッチルリ」と共演なさったときの次のようなエピソードでした。

○とにかく「カプッチルリ」は、信じられないくらい凄い歌手だった。彼が全く舞台の後ろを向いて歌っても、その声は客席の一番後ろまで完璧に聞こえた。○彼はいつも自由奔放で、舞台でもそのように予測もつかないような振る舞いを見せた。しかし、観客は彼のその姿に熱狂した。

○舞台では、型にはまったものは観ていてあまり面白くない。しかし、はじめは基本をしっかりと押さえ（その歌がどんなシチュエーションでどんな思いで歌われているか、また、相手の歌にどう反応するかをしっかりと押さえる）、その上で自由に演じることが大切。

その他にも、音が厚く、大音量のオーケストラに対抗して歌うための方法など、大変興味深いお話満載の4時間でした。

片岡先生、2日間本当に有り難うございました。



ピエロ・カプッチルリ

(Piero Cappuccilli, 1926年11月9日 - 2005年7月12日) は、イタリアのバリトン歌手。ヴェルディのオペラ、中でも『マクベス』や『シモン・ボッカネグラ』の歌唱で名高い。その卓越したブレス・コントロールと滑らかなレガート唱法から、20世紀後半最高のイタリア・バリトン歌手の一人とされる。